

## 玄翁堂の木造十一面観音菩薩像

十一面観音菩薩立像



**よみ** じゅういちめんかんのん  
ぼさつりゅうぞう  
**指定** 市指定有形文化財  
**種別** 彫刻  
**数量** 1軀  
**所在地** 御前崎市御上朝比奈  
**所有者** 玄翁堂の木造十一面観音  
菩薩保存会  
**指定日** 平成10年3月27日

十一面観音菩薩座像



**よみ** じゅういちめんかんのん  
ぼさつざぞう  
**指定** 市指定有形文化財  
**種別** 彫刻  
**数量** 1軀  
**所在地** 御前崎市上朝比奈  
**所有者** 玄翁堂の木造十一面観音  
菩薩保存会  
**指定日** 平成10年3月27日

### 詳細情報

**立像 像高** 40.2センチメートル  
**材質** ヒノキ材、一木造、玉眼嵌入、肉親部金泥塗

**座像 像高** 20センチメートル  
**材質** 一木造(木心は体部左側)、金泥塗、肩、眼、髭は墨書

### 解説

仏像が安置されている玄翁堂の名前は、玄翁(玄応)和尚がこのお堂に身を寄せて、托鉢して歩いたとの言い伝えに由来します。

立像と厨子は保存状態が悪いため、平成10、11年度に修復されています。

#### 立像

玉眼を施し、面相、衣文の彫法も丁寧で工芸品のような仕上げが施されています。様式から見ると、全体の雰囲気としては近世(安土・桃山～江戸)の観があるが、面相表現には古様も認められ、室町時代に造られた可能性もあります。

#### 座像

江戸時代の標準的な作例であり、保存状態は良いです。